



公益財団法人

日本AED財団

The AED Foundation of Japan

News Letter vol.7

2020年4月

Contents

1. 理事長挨拶
2. 第4回AED推進フォーラム2019
[第1部] 高円宮妃殿下のお言葉／講演／シンポジウム／パネルディスカッション
[第2部] 懇親会
3. AED功労賞授賞式

1. 理事長挨拶

「力強い日本に」

公益財団法人 日本AED財団理事長 三田村秀雄

日本中が楽しみにしていた2020東京オリンピック・パラリンピックの開催がついに延期になってしまいました。思いもよらぬ新型コロナウイルス・パンデミックの影響で、世界中が不安におののいています。学校が休みになり、イベントが中止され、ビジネスや、さらには医療の世界でも混乱が増大しています。そのようなストレス下でこそ守るべき心臓と、たとえその場に医師がいなくても救える命のあることを忘れてなりません。

貴い命を市民のAEDで救える世の中に、と願って活動続ける日本AED財団ですが、昨年末に2つの大きな出来事がありました。少し遅くなりましたが、今回のNews Letterではその報告をさせていただきます。

一つは昨年末12月20日付けで公益法人として認定され「**公益財団法人日本AED財団**」となったことです。これまで私たちが行ってきた活動は、AEDに関わる普及・啓発・教育や課題解決など、公益性が高いものと自負してきましたが、この度の公益財団化を踏まえ、AEDによる救命推進に特化した日本を代表する組織として、なお一層強力なリーダーシップを発揮して参る所存です。

当財団では活動資金を皆様からのご寄付に依存しておりますが、公益財団となることによって財団にとっても、また寄付していただく方々にとっても追い風になるものと期待しています。同時にそのためには公正で透明性の高い運営が求められており、これまで以上に皆様に信頼される財団にならなくては、と気を引き締め、覚悟を新たにしているところです。

もう一つの報告は、毎年恒例のAED推進フォーラムです。2019年12月13日、高円宮妃殿下のご臨席のもと、盛大に開催されました。基調講演・貴重体験談、そしてシンポジウムは3つの



Sの各場面に沿って3名の方の講演が行われました。パネルディスカッションでは、堀潤氏の司会で東京オリンピック・パラリンピックにつながるホットで有意義な討論が繰り広げられました。最後は恒例の功労賞授賞式が行われ、第1部は終了しました。

第2部の懇親会も、多数の参加を得て盛況のうちに幕を閉じました。当財団といたしましても、フォーラムを通じていただいた貴重な知見やご意見などを今後の参考にさせていただきます。

日本AED財団はこれからも進化を続け、国民の命を脅かす幾多の荒波を乗り越え、さらに力強い日本を築くというSustainable Development Goalsを目指して貢献して参る所存です。

どうぞよろしくお願い致します。

2. 第4回AED推進フォーラム2019

「減らせ突然死 AED 推進フォーラム 2019」

～心臓突然死から命を救う 仕組みと仕掛け～

第4回推進フォーラムが、2019年12月13日(金)世界貿易センタービルで開催されました。フォーラムは二部構成で、第1部が講演、シンポジウム、パネルディスカッション、AED功労賞授賞式。第2部は懇親会が行われ、多数のご参加をいただきました。

会長古川貞二郎の挨拶から始まり、続いて名誉総裁高円宮妃殿下より「たとえお節介と言われようと、まず誰かが率先して行動を起こしましょう。」と願いをこめたお言葉をいただきました。



古川貞二郎会長挨拶



高円宮妃殿下

基調講演は『AEDは本当に役に立っているのか?』(日本AED財団理事長 三田村秀雄)と題し、これまでのデータを振り返り、AEDの有用性を数字で示しました。

つぎに、貴重体験談として『AEDで救われた命』と題し、関西大学総合情報学部教授村田忠彦様が、マラソン中に心停止となり、周囲の協力による胸骨圧迫の継続とAEDの電気ショックにより生還した体験をお話しされました。



シンポジウムは、『急変時における現場対応の仕組みと仕掛け』というテーマで行われました。座長は、日本AED財団顧問の野口宏、同理事の田中秀治です。講演は以下の“3つのS”について行われました。



1. **School** 《学校で若い命を救う救急マニュアル》

(理事 桐淵博)

ASUKAモデルでの反省から学んだこと。さらに、学校現場におけるEAP(Emergency Action Plan: 緊急時の対応に備えた計画)について。



2. **Sports** 《スポーツ場面における迅速な救急対応》(公益財団法人日本陸上競技連盟理事・医事委員長 山澤文裕様)

マラソン中の事故を防ぐために、基本救命講習や救助員の研修を常時実施していること。AED配備の重要性について。



3. **Social** 《市民の協力で命を救う》(専務理事 石見拓)

街中における救命を円滑に行う工夫として、AEDの所在確認のためのAED N@VIの普及促進、通行人にAEDを見つけやすくするJIS AEDステッカーの作成、そしてスマホを活用したAED GOシステムの試用について。



パネルディスカッションのテーマは、『スポーツ大会における突然死をゼロに～東京2020オリンピック・パラリンピックを前に～』でした。司会者は、堀潤氏。パネリストは、鈴木大地スポーツ庁長官、有森裕子AED大使(元女子マラソン選手)、村井満顧問(日本プロサッカーリーグチェアマン)、武田聡理事(オリパラ救急災害医療体制コンソーシアム委員)の5人で幅広い見方や興味あるアイデアが交わされました。会場からの意見も加わり、活発な討論で盛り上がりました。



最後は、AED功労賞の表彰式が行われ、第1部は終了しました。

第2部の懇親会にも多数の参加を得て、三田村秀雄理事長の挨拶で始まりました。

ご祝辞は、大塚義治評議員(日本赤十字社 社長)、横川浩様(日本陸上競技連盟 会長)、中西壽子様(全国ママさんバレーボール連盟 代表理事)の皆さまからいただきました。

二川一男顧問(東レ株式会社顧問)のご発声で乾杯が行われ、続く懇親の場も盛況のうちに幕を閉じました。



3. AED功労賞授賞式

日本AED財団では2017年度よりAED功労賞を創設しています。2019年度は全国から24件の応募があり、厳正な選考の結果、最優秀賞1件、優秀賞2件が選出されました。



AED功労賞 おめでとうございます！

最優秀賞

『つくば市教育委員会による教育課程への位置づけ』

●つくば市教育委員会●

内容:「胸骨圧迫」や「AEDの使い方」に関する教育をつくば市の全45校で実践するために、これを教育課程に位置付けた。「つくばスタイル科」というつくば市独自のカリキュラムの中の「健康・安全・防災」の中で、継続的な学習として5～7学年、8～9学年でそれぞれ4時間程度設定している。

つくば市独自の特区のような試みですが、子供たちの将来にわたる意識や技能の育成に貢献していることが評価されました。また、このカリキュラムでは、地域の中での役割を学ぶ工夫もされており、ほかの地域への発展も期待されます。



優秀賞 1

『アパグループの AED 導入と社員の救命講習受講の取組み』

●アパグループ株式会社●

内容:アパホテルはAEDを全館に設置し、さらにホテルだけでなくマンション管理に携わる社員を含め、2,000人以上の社員がAED救命講習を受講し、人命救助の事例も複数ある。

アパホテルにAEDが設置されていることが地域の方に認知されており、社会に大きく貢献していることが評価されました。また、アパホテルのAED設置情報は当財団のAEDマップであるAED N@VIにすべて登録されており、設置+登録+講習を1企業が全国レベルで展開していることも評価されました。



優秀賞 2

『スポーツ観戦現場における
心臓突然死への対策「RED SEAT」の提案』

●夏野菜カレー(学生の有志グループ)●

内容:甲陽学院高校の3人の生徒が、スポーツ観戦中に倒れた人のもとにいち早くAEDを届けることを目的とした仕組み、「RED SEAT」を提案。

スポーツの会場に「RED SEAT」を設置し、その席の人にAEDを持ってきてもらう役割を担ってもらう。そのことを観客全員に周知しておくことで、万が一観客が倒れた時、いち早くAEDを届けることができるという仕組み。

ユニークで分かりやすい取組みが評価されました。設備投資が低予算で済み、啓発効果もあります。2019年11月には、実証実験も行われました。



公益財団法人 日本AED財団

〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目7-13 山手ビル3号館1階

TEL 03-3253-2111 FAX 03-3253-2119

E-mail: info@aed-zaidan.jp HP: http://aed-zaidan.jp/